



京都 YWCA

7 2024

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

世界 YWCA デー 世界につながる YWCA

京都・神戸・大阪 YWCA で合同開催！



毎年4月24日は世界中のYWCAが、若い女性や少女のリーダーシップ養成を進めるYWCA運動の中で、女性たちがともにメンバーとして参加していることや、達成した成果を祝う日となっています。4月27日、京都YWCAは神戸YWCA、大阪YWCAとともに世界YWCAデー初の合同開催に挑戦しました。

各YWCAの紹介のあと、大阪YWCAから世界YWCA総会代議員として参加した会員の報告、京都YWCAからCSW68（第68回国連女性の地位委員会）参加者の報告があり、最後に神戸YWCAのリードで全員がビンゴゲームを楽しみました。

世界100の国と地域に広がるYWCAが集まって

世界YWCA総会は2023年11月27日から12月1日までオンラインで開催されました。会則改正や予算案の決議、世界YWCA会長の選出などが行われたほか、若い女性たちのためのリーダーシップ・トレーニング・ガイドブック『RiseUp!』の活用をさらに進めること、セーフスペースの理解と促進、シニアの役割の3点が強調されました。それぞれの国・地域YWCAから、原発の処理汚染水の問題、紛争下での女性と子どもの状況、先住民族の権利など、報道からは知ることが難しい現地の声、女性の声が届けられました。韓国YWCAとパレスチナYWCAから声明が出される中で、参加YWCA間の格差も感じられたという報告に、世界中のYWCA同士がつながりあうことの難しさを感じました。

CSW68に参加した若者の率直な感想

2024年3月11日から22日までニューヨークで行われたCSW68に参加したユース7名のうち2名が京都YWCAの会員でした。CSWの概要のほか、日本のYWCA主催の平行イベントの様子が話されました。初日は派遣された喜びと期待が大きかったものの、委員会開会時の登壇者が中高年の白人男性ばかりだったことに対する困惑、国連の中にあっても存在する国家間の不平等さに対する怒りや失望、若

者の声が本当に国連の中で届いているのかという疑問、また英語や専門用語が聞き取れないと議論についていけない不自由さなども、報告者それぞれの視点から率直に語られました。

しかし会場には若い女性のためのセーフスペースが設けられていて、疲れたらその空間でゆっくり自分を大切にすることができたのは大きな支えになったということでした。CSWに参加できること自体が大きな特権であることを自覚し、世界の課題を解決するためには「この特権を有効に使おうと思う」という言葉に未来を感じました。

最後のビンゴゲームは、一人ひとりが全国にある24の地域YWCAの名前を思い出して16マスに書き込んでスタート。「ビンゴ」になるには2列を揃えなければなりません。景品は各YWCAが3品ずつ持ち寄った選りすぐりの逸品です。最後は同時にビンゴになる参加者が続出しジャンケンで勝負がつけられ、歓声が上がりました。

世界YWCAデー合同開催は、参加者を限定しなかったためYWCAが全く初めてという方への配慮が不足していたり、オンライン特有の課題もありましたが、参加者50名で和やかに終了しました。今後も地域YWCAが合同でプログラムを開催することで、さまざまな情報の共有やエンパワーし合える場の広がりがあると思います。

(篠田 茜)



京都YWCAの会場の様子

YここKitchen企画

～あじさい寮の留学生と交流イベント：デンマークのお菓子作り～

5月18日に京都YWCA留学生寮のあじさい寮に住むデンマーク出身のダナさんとエマさんが、デンマークで馴染みのあるイチゴタルト「Jordbaer Taerte」を作ってくれました。若者と子どもの居場所「YここKitchen」のメンバーも普段の生活の中であじさい寮の留学生と挨拶はしますが、なかなかお話をする機会がないため交流できたらと考えて実現した企画です。お菓子は日本にある食材で作りますが、レシピはデンマーク語です。レシピを見ながら手際よく作るお二人。普段から作っていたのかと聞くと、「初めて作りました」と笑顔で答えてくれました。お二人の会話はデンマーク語ですが、スタッフと話すときなどは日本語で話してくれるのでコミュニケーションが取りやすかったです。昔、日本にホームステイしていたことがあったり、日本語の勉強をしっかりとされたことを聞き、私たちが語学の勉強をするべきだなあと感じました。少しデンマーク語を覚えてもらいましたが、発音が難しく、文字も英語表記と違うものがあり、なかなかすぐには覚えられませんでした。

ぜひたくさんの方に食べていただきたいと思い、その日会館に来られていた方にもお声がけさせていただきました。召し上がったみなさま、いかがでしたか？ぜひ、

お二人に感想を届けたいと思います。

午後3時からはYここKitchenの若者と交流をしていただきました。さまざまな言語が飛びかい、普段とはちょっと違う雰囲気となりました。お菓子のお礼にスタッフからは日本食を提供しました。木の葉丼と鶏つくねのお味噌汁です。おいしいご飯を作ってくると定評のあるスタッフと、ボランティアの力作です。あじさい寮の留学生との交流を通じて互いの文化を知る機会をこれからも作っていききたいと思います。（山本 佳奈）



「YここKitchen」での交流の様子



イチゴのタルトは好評でした

2024年度加盟YWCA中央委員会に参加して

日本YWCAに加盟する地域YWCAが毎年5月に集まって開催される中央委員会に参加してきました。

土地勘のない街で初めて参加する委員会、期待より不安の多い曇り空のような気持ちで京都を立ちました。しかし、博多の街は活気にあふれ、訪れた福岡YWCAで日本YWCAスタッフや福岡YWCAの方々の心温まるホスピタリティを受け、曇り空は晴天に変わりました。

初日は福岡YWCAの会館見学後、参加者交流会がありました。福岡YWCAは白色ベースの清潔感あふれる会館で、資産運用で財政が安定した経営がなされているとのことでした。交流会では、「この1年、地域YWCAや他団体との協働によってつくり出した動きは何ですか？また、その地域／社会にどのような変化／影響をもたらしましたか？」という共通のテーマで話し合いました。私のグループでは、地域YWCAが保有している歴史的資料が大学等の研究資料になった場合の価値と保護、契約等が話題となりました。

二日目はアフガニスタン人道支援の故中村哲医師の母校である西南学院中・高等学校が会場となりました。日本YWCAの報告やユースによる報告があり、京都YWCAユース会員の東上菜々子さんがオンラインでCSW68のすばらしい報告をされました。「地域YWCAを主体とした活動(LA)」第3期各プロジェクトの中間報告もあり、京都YWCAは横浜YWCAと福岡YWCA

と協働する「多様な人々が集う居場所づくり」の報告をいたしました。協議では、地域YWCAを通さず日本YWCAに直接会員登録し地域を超えて活動する新しい会員制度（追加会員制度）について議論が行われました。論点として「1. 会費、2. 権利、3. リーチする対象、4. 国際プログラムに参加したユース、5. 地域YWCAからの人材流出」の5つが示され、各地域YWCAはそれぞれ実情や受け止め方が異なり活発な話し合いとなりました。新会員制度は危機感の中から出たもの故どんどん進めるべきだ、時代に即したやり方に移行していくべきだ、などの賛成意見がある一方、信頼できる仲間と一緒に活動する意義は保てるのか、地域YWCAの人材流出に繋がるおそれもある等の意見も出されました。今後この案件は日本YWCAで検討を重ねられ、今年11月の全国会員総会に提案され再議論することになります。

たくさんの情報と出会いを得た中央委員会、ここで得たものを今後京都YWCAの活動にどう活かすのか考えつつ帰途につきました。

(会長 三木 みや子)



資料に真剣に目を通す各地域YWCAの会長

活動グループ紹介シリーズ①

～コーラスグループ「エコ・ド・Y」～

京都YWCAには委員会による会員活動とは別に、会員と会員外の人たちで作るグループ活動があります。現在は4つのグループがYWCAの精神に則り、それぞれのテーマで自主活動を行っています。これから4号にわたり京都YWCAの活動グループを紹介します。今回はコーラスグループ「エコ・ド・Y」で長年活動される会員の鍛冶富美子さんにお話をお聞きしました。以下、編集部でまとめたものです。

1997年に、会員のカーフ・ロイスさんが所属されている教会のコーラスグループが、その教会の移築に伴い、数カ月の間京都YWCAで場所を借りて練習されることになった。ところが新教会が完成しても京都YWCAが気に入られてそのまま続けたいという方たちがおられた。結局12人ほどが残られることになり、当時は他のコーラスに参加していた私も誘われ、親しみやすい歌に共感し参加することになった。

京都YWCAの中で活動するとなると幹部委員会（現運営委員会）に承認してもらわなければならない。最初は理解されなかったが、「将来歳を重ねた会員にとって、認知症予防を兼ねたとてもいい居場所となるはずだ」と説得した。指揮に盛満喜さん、ピアノに前川邦子さんを迎えてスタートした。

現在メンバーは25人で最初からいる人は私を含めて2

人。年齢は最高齢が102歳、90代が4人、ほとんどの方が80代で60代が一人おられる。現在は指揮を斉藤豊子さん、ピアノを芦田敦子さんをお願いし、月2回の練習を楽しんでいる。歌は自然への讃歌や平和への祈りなどを選んでいく。京都YWCAのイースターやクリスマスで披露させていただいたり、外でのコンサートを京都市国際交流会館で行ったことがある。6月16日に十数年ぶりのコンサートを京都堀川音楽高校の音楽ホールで開催した。

最後に個人的な話になるが、ピアノ前任者の前川さんのお連れ合いさんが一時指導にきてくださり、「古代より日本人は遠くへ届くような地声が当たり前だが、西欧では洞窟での暮らしから、響く声の出し方が身についている。地声ではなく頭の後ろから音を送るように出ささい」と言われ、それがとても印象深くストンと腑に落ちた。



オープン10周年 シリーズ「うららかふえ」こぼればなし

～メニューで思い出す、あんな顔、こんな顔～

今年の9月で10周年、「うららかふえ」もだいぶ長く続いています。ランチ担当者の顔ぶれも時の流れとともに、変わってきました。そんな事を考えていると、関わってくださった、また現在も関わってくださっているたくさんの方たちの顔がメニューとともに浮かんできます。

イベントの時にも得意料理のコロッケやばら寿司を作ってくださった方。娘さんがオーストリアの方と結婚し、ハンガリー発祥の料理「グーラッシュ」をその国で食べ、覚えて作られていた方。「紅茶チキン」もよく作られていたと記憶しています。細かい凝った飾りが上手で野菜の抜き型で様々な工夫をされていた方、必ずデザートをつけてくださる方、揚げ物が得意な方。パンといえばあの方、アジア料理といえばあの方、「チキン南蛮」といえばあの方、などなど挙げたらキリがありません。メニューを見たら担当者がわかるようにさえなってきました。高齢者住宅「サラム」の方たちも、「今日のメニューは〇〇〇さんじゃない?」と見事に言い当てて、楽しみにされているようです。

始めた頃は今より10歳若かった私たち。いろいろなメニューを試みて、思い通りにいかないこともありました。

作り過ぎた時、足りなくなった時、失敗した時、それぞれに思うこともあったでしょう。ランチ作りから離れた方、不定期になった方、ヘルプとしてランチ作りを支えている方とさまざまです。担当者の顔ぶれは変わっても「あの人、今どうしているのかな?」と時々話題にできることも。これからももっともっとたくさんの顔がメニューとともに増えますように。
(ハイナ 啓子)



ランチの準備



ランチを楽しむ「サラム」の皆さん



「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業へのご支援のお願い

京都 YWCA100 周年記念募金は、お陰様で目標の 1000 万円を達成し、総額 10,510,949 円となりました。いただいたご寄付によりサマリア館補修が実現し、今後はさらに保育園設備の向上、リーダーシップ養成などに有効に使わせていただきます。



現在進めている「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業をさらに持続・発展的に進めるために、引き続きご支援をお願い申し上げます。ご寄付は事務所窓口にて、あるいは郵便振替をご利用ください。

郵便振替 01080 - 9 - 1566

加入者名 公益財団法人京都 YWCA

「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業全体へは以下のサイトよりオンラインでもご寄付いただけます。

https://congrant.com/project/kyotoywca/4775



活動を指定したご寄付等の詳細は事務所に問い合わせさせていただくか、ホームページをご覧ください。http://kyoto.ywca.or.jp/support

賛助員を募集しています！

賛助員となって持続的に京都 YWCA をお支えいただく方を募集しています。

賛助費(年額) 個人：5,000 円もしくは 10,000 円 団体：10,000 円/一口

ご協力ありがとうございました

2024年4月1日から年5月31日までの寄付者一覧(敬称略、順不同)

各指定寄付

* 法人支援

大手理絵、本田次男、匿名、ヤマモトトモヤ

* 親・子育て支援活動委員会

平野富希

* 多文化共生委員会

織田雪江、森佑里子、筒井奈都子、北村保子

* APT

神門佐千子、ヘイナ啓子、安藤いづみ、織田雪江、松田ユリーサ、匿名、田中順子、飯田奈美子、北村保子、林律、リンパヤラヤ スプラーニー

* あじさい保育園

神門佐千子

* 自立援助ホーム「カルーナ」

御前明美、篠田茜、平野富希、中江和子、実生律子

* 賛助費

斉藤豊子、小林聡

お詫びと訂正

2024年5月号に掲載の寄付者一覧に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

自立援助ホーム「カルーナ」

誤：カトウショウ 氏 正：カトウシュウ 氏

今後のプログラム

◎カフェフリーデン

- テーマ：今 水保を考える
■講師：実川悠太さん(水保フォーラム理事長)
■日時：2024年7月6日(土) 16:30～18:30
■場所：京都 YWCA ミニホール
■参加費：500 円(寄付付 1,000 円)
■申込：京都 YWCA 受付または QR コードより
■主催：京都 YWCA 平和・環境活動委員会



◎ガジュマルの樹「夏休みデayout」

小学生の皆さん、京都 YWCA で楽しい一日を過ごしませんか？

- 日時：8月21日(木) 9:30～16:30
■場所：京都 YWCA 本館1階
■対象：小学1～6年生
■参加費：2,800 円(昼食、おやつ、プログラム材料費込み)
※プログラム前後に預かり保育も有料で承ります。
■内容：ウクライナについて知ろう、科学実験
■申込み：京都 YWCA 会館設置の申込書にご記入の上、受付にご提出ください。
■主催：京都 YWCA 親・子育て支援活動委員会

◎第3期 LA「多様な人々が集う居場所づくり」連続学習会②

- テーマ：さまざまな背景をもつ当事者が活かされる場を当事者・地域・企業と共につくる方法
■講師：平井万紀子さん(まあいいか labo きょうと代表)
■日時：2024年8月31日(土) 15:30～17:30
■場所：京都 YWCA ミニホールまたはオンライン
■参加費：無料
■対象：会員、会友、ボランティア
■申込：京都 YWCA 受付または QR コードから。
■主催：京都 YWCA・横浜 YWCA・福岡 YWCA



ボランティア募集！

～多文化子どもプログラム～

多文化ルーツの子どもに日本語での学習支援を行っています。夏のキャンプやおでかけ等も企画しています。学習サポートをすると共に、子どもたちにとって身近な年長者として子どもたちと信頼関係を結んでくださるボランティアを募集しています。

～日本語教室の講師～

にほんご教室「洛楽」はボランティアで運営している日本語教室です。

現在、受講生 70 名、講師 12 名でクラス形式で日本語上達をお手伝いしています一緒に日本での暮らしを支える活動をしませんか。

下記いずれかに該当する方を募集しています。

- ・日本語教師養成講座を受講中または修了した方
・日本語教育能力検定試験に合格している方
・登録日本語教員資格をお持ちの方
・上記と同等の日本語能力をお持ちの方

5・6月/理事会報告

- 5/27：京都 YWCA 高齢者住宅「サラーム」交流会として京都御所散策と会食を実施
●6/13：2023 年度の決算処理および監査を実施
●2023 年度カラー事業報告書を発行(7月1日)
●6/22：第3期 LA「多様な人々が集う居場所づくり」連続学習会①

- 「改めて考える『セーフスペース』って何？」(講師：横浜 YWCA 倉戸ミカさん)
●6/29：評議員会にて任期満了に伴う新しい評議員、監事、理事の選任および定款一部改正の承認
●12月に京都で開かれる「水保展」の協賛団体となることを決める。

KYOTO YWCA No.581 2024年7月号(7月1日発行)

発行人：上村諭巳子

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075)431-0351

FAX：(075)431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

HP：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財)京都 YWCA

定価：1部 50 円

発行：奇数月 1 日発行